

諸書の書
またはラピスラズリの書
エジプト人らのカバラ概要
第7の書

達人精神から被免された、とある達人の自発的解放の書。
これらは「神殿の首領」の「誕生の言葉」である。

Soror. O.I.L. 訳

いまだ生まれぬ者のプロローグ

1. わが孤独へと来たる——
2. 最遠の丘に出没する薄暗い木立のフルートの音色。
3. かの激しき川からさえ、それらは荒野のふちにいたる。
4. かくてわれはパーンを見る。
5. かの雪は永遠なる超越、超越——
6. またそれらの芳香は、星々の鼻腔へ煙を立ち昇らせる。
7. されどわれはそれら以てなにを為すというのか？
8. そのパーンの永遠のヴィジョンたる微かなるフルートのみをわが方へ。
9. 眼に、耳に、パーンのあらゆる側面に於いて。
10. いきわたるパーンの香り、すっかりわが口を満たす彼の味。そのように異言はこの世ならぬ奇怪な発話へとほとぼしる。
11. 痛みと快樂のあらゆる中心に於ける熱烈な彼の抱擁。
12. 6番目のうちなる感覚は彼の最奥に激しく燃え。
13. われ自身は存在の断崖へと投げ落とした。
14. 深淵でさえ、消滅。
15. すべてに於ける、孤独の終わり。
パーン パーン 万歳パーン 万歳パーン
16. **Pan! Pan! Io Pan! Io Pan!**

I

1. わが**神**よ、われがいかに**汝**を愛していることか！
2. 狂おしき獣の欲望でわれは**汝**を探し、**宇宙**のいたるところを。
3. 武装都市の辺境の尖峰のごとく**汝**は佇む。われは白い鳥であり、**汝**が上にとまる。
4. **汝**はわが**恋人**。われには**汝**が春までにその白き四肢をのぼすニンフのごとく見える。
5. 彼女は苔の上で横たわる。ほかには誰もおらぬが彼女だけがそこに。
6. **汝**は**パーン**ではないのか？
7. われが**彼**だ。語るなかれ、おおわが**神**よ！ 沈黙のうちにその業を完成させたまえ。
8. かの森へと逃げ込もう、わが苦痛の叫びを白い子鹿のうちに結晶とさせるのだ！
9. **汝**はケンタウロスなり、おおわが**神**よ、すみれ色の花が馬蹄に**汝**を載せたるために。
10. **汝**は鍛鋼よりも硬い。**汝**にならぶダイヤモンドはなし。
11. われはこの身体と魂を生み出さなかったか？
12. われは**汝**に求愛する、わが喉を横切ったダガーによって。
13. 血の噴出に**汝**の血への渴望をいやさせよう、おおわが**神**よ！
14. **汝**は巢穴の**夜**の白い小兎。
15. われは狐とその穴よりも大きい。
16. **汝**がくちづけをわれに与えたまえ、おお**主なる神**よ！
17. 稲妻が来たりて羊のちいさな群れをなめつくした。
18. そこには舌と炎があり、われはそのトライデントが海を越えて歩くのを見る。
19. フェニックスは頭部にそれを持ち、下は二分なり。それらは不徳を突き刺す。
20. われ、**汝**を槍で突かん、おお**汝**、ちいさき灰色の神よ。**汝**が不用心であるならば！
21. 灰色から金へ。金から、オフィールの金を超えたそれへと。
22. わが**神**よ！ だがわれは**汝**を愛している！
23. なにゆえ**汝**はそのように不明瞭なことを囁くのか？ **汝**は恐れていたのか、おお有蹄山羊なる**者**、角ある**者**、おお稲妻の柱よ？
24. 落雷の真珠から、無の黒いしみの真珠から。
25. われは1の上に全を置く、無の上に1を。
26. エーテルに浮かびし、おおわが**神**よ、わが**神**よ！
27. おお**汝**偉大なるフードをかぶった栄光の太陽よ、それらまぶたを切り落とせ！
28. 万物が消滅するであろう。彼女はわれを隠す。恐れを以ってわがまぶたを閉じ、彼女はわが破滅からわれを隠す。おお**汝**眼を開け。
29. おお常に嘆きたる**者**よ！
30. **イシス**はわが母にあらず、**オシリス**もまたわれ自身にあらず。だが**タイフォン**に託されし近親相姦の**ホルス**はそう、われかもしれぬ！
31. 思考があり、思考は悪である。
パーン パーン 方歳パーン
32. **Pan! Pan! Io Pan!** それで充分だ。
33. 死に陥ることなき、おおわが魂よ！ 死はお前が墜落の真っ直中たる寝台であると思え！
34. おおわれがいかに**汝**を愛していることか、おおわが**神**よ！ とりわけ無限からの烈しい並行光があり、朦朧としたこの精神の下劣な回折がある。
35. われは**汝**を愛している。
われは**汝**を愛している。
われは**汝**を愛している。
36. **汝**はうつくしく、この振動の支柱の女よりも白い。
37. われは矢のごとく垂直に上昇し、**高さもの**となる。
38. しかしそれは死であり、火葬の薪の山の炎である。
39. 薪の山の炎のうちにて上昇せよ、おおわが魂よ！ **汝**の**神**はそのちいさな光の発散に、

最上天のつめたき虚無のごとし。

40. **汝**がわれを知りたる暁には、おお空虚なるわが**神**よ、わが炎は**汝**の偉大なる N.O.X.にてまさに果つ。
41. **汝**は何者であり得よう、わが**神**よ、われが**汝**を愛するのをやめたなら？
42. 虫けら、無価値、臆病な召使よ！
43. しかしおお！ われは**汝**を愛している。
44. **汝**が足の**彼方**の籠よりわれは 100 万輪の花を投げ、**汝**と**汝**の杖を聖油と血とくちづけにて清めたり。
45. われは生きてる**汝**が大理石像に火をつけた——ああ！ 死せる。
46. ワインを飲まず生命を飲みたる、**汝**がひどい口臭にわれは心奪われている。
47. 宇宙の露はいかにくちびるを白くするのか！
48. ああ！ 母なる**天空**の星々の滴りよ、立ち去れ！
49. われは来たるべき**彼女**、すべての者たちの**処女**。
50. われは**汝**が面前では少年なり、おお**汝**好色なる**神**よ。
51. **汝**快樂の罰を与えん——今！ 今！ 今！
方歳パーン 方歳パーン
52. **Io Pan! Io Pan!** われは**汝**を愛している。われは**汝**を愛している。
53. おおわが**神**よ、われを赦したまえ！
54. 今！
完了した！ 死。
55. われは声高に言葉を叫んだ——それは**眼に見えぬ**ものを縛る強力な呪文であり、縛られたものを解放する魔法である。しかり、縛られたものを解放するのだ。

II

1. おおわが**神**よ！ われに**汝**をふたたび働かせたまえ、常にいつでも。とこしえに！
とこしえに！
2. それはわが水より生じた**汝**の火。それゆえに**汝**が**靈**にわれを掴ませたまえ、わが右手が稲妻を放つよう。
3. 宇宙の旅、われはふたつの銀河の衝突を見た。互いに突き合い地球上の雄牛が角で突くさまに似ていた。われは恐怖した。
4. かくしてそれらは戦いをやめ、われへと振り向き、われはひどく砕かれ引き裂かれたのであった。
5. それよりむしろ**世界象**に踏みつぶされたい。
6. おおわが**神**よ！ **汝**はわがペットたるちいさな亀！
7. **汝**はまだ**世界象**を支えたる。
8. われは**汝**の甲羅の下へと忍び寄る、うつくしき彼の恋人の寝台へとするように。われはそっと忍び込み、**汝**の狭く心地よさそうな心臓に座る。
9. **世界象**のトランペットを聞かぬよう、**汝**はわれを匿う。
10. **汝**には集会場に於けるオポロース銀貨の価値はない。**汝**はまだ**全宇宙**の身代金を支払えはせぬ。
11. **汝**は浴場にそびえ立つ緑の大理石柱に裸の紫をもたせかけるうつくしきヌビア人奴隷のようだ。
12. 彼女の黒い乳首からワインが噴き出る。
13. われは**ペルティナクス**家にてしばしの間ワインを飲んだ。給仕の少年はわれを歓迎し、善良で愛らしいキオス島の者を与えた。
14. ドーリア人の少年がおり、力強く腕の立つ、競技者であった。満月は腹立たしげに逃げ去り、没した。
ああ！ だがわれらは笑った。
15. われはひどく酔っていた。おおわが**神**よ！ にもかかわらず、**ペルティナクス**はわれを花嫁のもとへ連れて行った。
16. すべてのわが持参金に対するいばらの冠をわれは受けとった。
17. **汝**アストール山の山羊の角のごとし、おお**汝**わがものなる**神**、ふしくれ立ちねじれ曲がり悪魔のごとく力強き。
18. すべての**裸山**の氷河すべての氷よりもつめたきは、われに注がれしワインであった。
19. 荒れ狂う国と青ざめた月。
叢雲は空をすばやく滑り行く。
松の回路、背の高いちいの回路の彼方に。**汝**中央に！
20. おお墓蛙と猫のみ、喜べ！ **汝**ら穢れた者ども、ここへ来たれ！
21. 踊れ、踊れわれらが**神なる主**へと！
22. 彼は彼だ！ 彼は彼だ！ 彼は彼だ！
23. いったいどうして、われは進み続けるのか？
24. なにゆえに？ なにゆえに？ 突如地獄の100万匹のインプの甲高い笑い声がやって来る。
25. そして笑いが起こる。
26. だが**宇宙**を病ませるなかれ。だが星々を揺るがさぬよう。
27. **神**よ！ われがいかに**汝**を愛していることか。
28. われは精神病院を歩く。わが周囲のすべての男と女は皆気が狂っている。
29. おお狂気！ 狂気！ 狂気！ 望ましきは**汝**。
30. だがわれは**汝**を愛している、おお**神**よ！
31. これら男女らは喚き、唸りたり。彼らは愚行を泡と吹き出させる。

32. われは恐れはじめた。われは検閲を持たぬ。われは孤立している。孤立。孤立。
33. 考えたまえ、わが**神**よ、**汝**が愛にてわれがいかに幸福なるかを。
34. おお大理石の**パーン**よ！ おお偽りの流し目の顔！ われは**汝**の血なまぐさい悪臭を放つ、暗きくちづけを愛している！ おお大理石の**パーン**よ！ **汝**がくちづけは青きエーゲ海の太陽光のよう。その血はアテーナイの日没の血。その悪臭は**マケドニアの薔薇園**がごとし。
35. われは日没と薔薇と葡萄の木の夢を見た。**汝**はそこにいたもうた、おおわが**神**よ、**汝**は**汝自身**の習いをアテーナイの売春婦として行い、われは**汝**を愛したり。
36. **汝**夢でなく、おお**汝**眠りと目覚めに似たあまりにもうつくしき者！
37. われは地球の狂った人々を追い散らした。われはわがちいさな操り人形とともに庭園をひとり歩く。
38. われは**ガルガンチュア**の偉人。その銀河はわが香の煙の輪にすぎぬ。
39. **汝**奇妙なハーブを燃やしたまえ、おお**神**よ！
40. 魔術の溶液でわれを醸造したまえ、少年らよ、お前たちの視線以て！
41. まさに魂は酔いしれ。
42. **汝**は酩酊したり、おおわが**神**よ、わがくちづけに。
43. **宇宙**はよろめきたり。**汝**はそれを見た。
44. 2度、そしてすべてが完了した。
45. 来たれ、おおわが**神**よ、そしてわれらを抱擁したまえ！
46. 怠惰に、食欲に、熱烈に、忍耐強く。そのようにわれは働くであろう。
47. **終わり**あり。
48. おお**神**よ！ おお**神**よ！
49. われは**汝**を愛する愚か者。**汝**は冷酷であり、**汝自身**を与えずにおく。
50. ただちにわがもとへ来たまえ！ われは**汝**を愛している！ われは**汝**を愛している！
51. おおわが最愛なる者、わが最愛なる者——われにくちづけたまえ！ われにくちづけたまえ！ ああ！ さてふたたび。
52. 眠りよ、われを連れて行け！ 死よ、われを連れて行け！ この生はたくさんだ。それは苦痛を与え、殺害し、充分なのだ。
53. われを世界へと戻らせよ。しかり、世界に戻るのだ。

III

1. われはテーベの**アメン＝ラー**神殿の、**アメン＝ラー**の司祭であった。
2. だが蔦に覆われし少女らの一団と歌いながら**バックス**がやって来た。暗黒のマントを纏いし少女ら。そして子鹿のような中央の**バックス**！
3. **神**よ！ われがどのようにわが激情に駆け出し合唱をまき散らしたか！
4. なれどわが神殿では**バックス**が**アメン＝ラー**の司祭のごとく佇みたり。
5. ゆえにわれは少女らとともに猛然とアビシニアへ行き、滞在し喜んだ。
6. このうえなく。しかり、心底から。
7. **バックス**が栄光のためわれは熟れた果実と未熟な果実とを食すであろう。
8. ひいらぎのテラス、オニキスとオパールとサードニクスの階段は涼しげな緑のマラカイトの玄関に通ず。
9. 内壁の水晶たる貝殻、牡蠣のごときなりをした——おお**プリアポス**の栄光よ！ おお**偉大なる女神**の至福よ！
10. そこに真珠あり。
11. おお真珠よ！ 恐るべき**アメン＝ラー**の威厳より汝来たり。
12. われこと司祭は真珠の中心の揺らがぬ輝きを注視せり。
13. 大層眩しくわれらに見ることはできぬ！ しかし注視せよ！ 輝く金の十字架の血の色をした赤い薔薇！
14. そうわれは**神**を崇拜した。**バックス**！ 汝はわが**神**の恋人なり！
15. われは**アメン＝ラー**の司祭、ナイル川の流れを幾月も見た、いくつもの、いくつもの月、灰色の地の若い子鹿なり。
16. お前たちの秘密集会にてわれは舞踊を用意するであろう、またわが秘密の愛はお前たちの間にて甘美となろう。
17. 汝の恋人は灰色の地の領主らのうちに。
18. これは彼が汝にもたらしべきであろう、それなしではすべてが無駄である。男の生命はわが祭壇上の汝の愛へと流れ出た。
19. アーメン。
20. ただちにさせたまえ、おお**神**よ、わが**神**よ！ われは**汝**を熱望する、われは狂った人々の間でこの上なく孤独に彷徨っている、荒れ果てた灰色の地で。
21. **汝**は邪悪からなる忌まわしく孤立した**もの**を設けるだろう。おお歓喜よ！ 基礎を置かん！
22. それは直立せし高き山であろう。わが**神**のみがそれと通じ合うだろう。
23. われはひとつのルビーでそれを建てよう。遙か彼方より見えよう。
24. 来たれ！ われらに地の器を刺激させたまえ。彼らは奇妙なワインを蒸留するだろう。
25. それはわが手元にて増え、天界全体を覆うであろう。
26. 汝わが後ろに。われは狂喜に叫ぶ。
27. すると力強きイスーリエル曰く。「**われら**もこの不可視なる驚異を崇拜しようぞ！」
28. そう彼ら、および天界に押し寄せたる大天使たち。
29. 奇妙で神秘的な、**北方**より大きな灰色の鳥の群れを召喚するアジアの司祭のごとく、われは立ち上がり**汝**を喚ぶ！
30. 彼らにそれらの翼と叫びによりて太陽を多い隠させぬよう。
31. 形とそれを支えるものを奪い去れ！
32. われは静止している。
33. **汝**は稲の間にいるみさごのようだ。われは日没の水域にいる大きな赤いペリカンのよう。
34. われは黒人宦官のようであり。そして**汝**は三日月刀だ。われは輝くその頭に襲いかかり、パンと塩を砕く者。
35. しかり！ われは襲いかかる——その血がつくりたるは言うなれば**王の寝室**のラピス

ラズリの日没。

36. われは襲いかかる！　すべて世界は強風がうちへとばらばらにされ、人には話すことあたわぬ異言を叫ぶ。
37. われはその原初の歓喜の恐ろしきしらべを知っている。強風の翼に続こうハトホルの家にも。彼女の祭壇に雌牛の5つの宝石を捧げよう！
38. またもや人ならざる声！
39. われは強風の齒のうちへとわが**ティターン**の巨体を立て、襲い勝利し、海の彼方にわれを振り出す。
40. そこには奇妙な青ざめた**神**、苦痛と死へといたる邪悪の神がいる。
41. わが魂はそれ自身に食らいつく、火の指輪を嵌めた蠍のように。
42. 其は顔を背けし青白い**神**、其は希薄さと笑いの**神**、其は若き**ドーリアの神**、われが崇拜するのは彼であろう。
43. その終わりは言語に絶する苦痛。
44. 大なる灰色の海の孤独よりも！
45. だが災厄は灰色の地の人々に降りかかる、わが**神**よ！
46. わが薔薇にてそれらを覆わせたまえ！
47. おお**汝**美味なる**神**、よこしまに微笑みたる！
48. われは**汝**をひっこ抜く、おおわが**神**よ、日当たりよき木の紫プラムのごとき。わが口内にて**汝**はいかに溶けようか、**星々**の砂糖を聖別したる**汝**！
49. わが眼前では世界はすべて灰色である。使い古されたワインの革袋のごとく。
50. そのすべてのワインはこれらのくちびるに。
51. **汝**は大理石の**像**としてわれを生みたり、おおわが**神**よ！
52. この身体の凍れる寒さは100万の月のつめたさ。それは永遠の堅固なるより硬い。われはどのように光へと現れようか？
53. **汝**は**彼**だ、おお**神**よ！　おおわが最愛なる者！　わが子よ！　わが玩具よ！　**汝**は処女の一团のごとし、湖上の白鳥の群れのごとし。
54. われ柔らかさの本質に触れたり。
55. われは硬く力強くまた男である。しかし来たれ**汝**！　われは柔らかく弱くまた女であろう。
56. **汝**は**汝**が愛の葡萄搾り機を以ってわれを砕くであろう。わが血液は**苦悶の愛**の祈祷により**汝**の燃える足を染めるであろう。
57. 野にあらたな花が咲こう、葡萄園にはあらたなワインが。
58. 蜂はあらたな蜜を集め。詩人はあらたな歌をうたおう。
59. われは戦利品として**山羊の苦痛**を得る。**神**は半睡にあらう**時**の肩に座り込む。
60. そののち書かれているすべてが成就されるだろう。しかり、すべて成就されるだろう。

IV

1. われは淡水の透き通る池にはじめて浴する処女に似たり。
2. おおわが**神**よ！ われには**汝**が暗く魅力的と映り、水は黄金の煙として昇る。
3. **汝**はすべてが黄金である、髪に眉、光輝くおもて。指先やつま先すら**汝**黄金たる一輪の薔薇の夢。
4. 太陽をおびやかす大天使がごとく、わが魂が跳躍したる黄金は**汝**の眼の奥深くにあり。
5. わが剣は**汝**を貫き通す。**汝**の楕円形の眼の陰に隠れたる**汝**がうつくしき身体から水晶の月が滲み出る。
6. なお深く、いっそう深く。われは落ちる、**宇宙**すべてが**歲月**の深淵へと落ちるのとともに。
7. **永遠**の呼び声へと。**上なる世界**の呼び声へと。**言葉**の世界はわれらを待ち構えている。
8. 発話にて完了したまえ、おお**神**よ！ このわが喉に獵犬の牙を**永遠**に留めつけたまえ！
9. われは円を描いて羽ばたく傷ついた鳥のごとし。
10. われがどこに落ちるのか誰が知ろう？
11. おお神聖なる**者**！ おお**神**よ！ おおわが貪る者！
12. われを落下させたまえ、落とし、剥落させたまえ、彼方へ、ひとりで！
13. われを落下させたまえ！
14. いかなる憩いもなく、**甘美なる心臓**、王家の**パッコス**のゆりかごの保護、最も**神聖なる一者**の腿。
15. そこにて安らいたり、夜の天蓋の下。
16. **ウーラノス**は**エロース**を窺めた。**マルシュアース**は**オリンパス**を窺めた。われは彼の太陽光線のたてがみを以ちわが恋人を窺めた。われは歌わぬのか？
17. わが呪文は月と蜂蜜と没薬の軟膏にてきらめきたる身体をした、森の神々の見事な一団をわが周りに連れては来ぬのか？
18. 崇拜すべきは**汝**ら、おおわが恋人たちよ。薄暗い穴へと進み入ろう！
19. マンドレイクとモリュを楽しもう！
20. そこでうつくしき**一者**は**彼**の聖なる宴をひらくだろう。とうもろこしの茶色いケーキにわれらは世界の糧を味わい、強くなるのだ。
21. 赤く恐るべき杯の中でわれらは世界の血を飲むだろう、そして酔ってしまえ！
22. オーエ！ **Iao**がための歌、**Iao**がための歌！
23. 来たりて、われらを**汝**へと歌わせたまえ、不可視なる**イアッカス**、勝ち誇りし**イアッカス**、言語に絶する**イアッカス**！
24. **イアッカス**、おお**イアッカス**、おお**イアッカス**、われらのもとへ！
25. その時過去に例を見ぬほど顔色は暗く、それから真実の光が輝いた。
26. そこにはまた未知なる言語のたしかな叫びがあり、その甲高さはわが波立たぬ魂を乱し、そしてわが精神とわが身体はそれらの自己認識の病からいやされた。
27. しかり、天使が水域を乱した。
28. これは**彼**の叫びであった。IIIIOOShBTh-IO-IIIAMAMThIBI-II
29. **汝**が来たる以前 1000 の夜千夜にわたりわれは歌わなかった、おおわが燃え立つ**神**よ、そして**汝**が槍で貫かれたるわれ。**汝**の緋色のローブは天界すべてを明らかにし、それから**神**が告げた。「すべては燃えている」それで終わりである。
30. 更に**汝**は**汝**がくちびるを傷に寄せ 100 万個の卵を吸い出した。そして**汝**が母は彼らの上に座り、見よ！ 星々と星々と原子たる星々のうちの究極のもの。
31. それからわれは**汝**に気づいた、おおわが**神**よ、あずまやの格子細工に白い猫のごとく座りたる。また回転する世界の鼻歌は**汝**が快樂にすぎぬ。
32. おお白き猫よ、**汝**が毛皮より火花散りたる！ **汝**は世界の分裂に満ちている。
33. **アイオンのヴィジョン**で見たるよりも白い猫のうちにわれはいっそう**汝**を見た。

34. われはラーの船で旅をした、しかし可視の宇宙に於いては汝がごとき者は見つからず。
35. 汝は翼ある白き馬がごとくあり、またわれは神たる主に逆らい汝にて永遠を駆けめぐった。
36. つまりいまだわれら走りたり！
37. 汝は松に覆われたる森に降るひとひらの雪がごとくあった。
38. 似たものと似つかぬものの荒野にて輝く間に汝は消える。
39. だがわれは猛吹雪の奥にうつくしき神を見たり——汝が彼であった！
40. またわれは偉大なる本に読む。
41. 古びた皮には金の文字で書かれていた。言葉は言葉を生ずる **Verbum fit Verbum**
42. 更に **Vitriol** と高等司祭の名
V.V.V.V.V.
43. いずれも火に運び入れる、星の火に、希有で遠く完全に孤立した——汝とわれでさえも、おお孤独な魂たるわが神よ！
44. その上、またこう書かれていた。



よろしい。

これが地球を振動させた声である。

45. 彼は 8 度大声で叫んだ、また 8 度ずつそして 8 度ずつとわれは汝が助けを数えるであろう、おお汝 11 重の神 418 ！
46. それどころか、更に多くにより。22 の道すじのうち 10 によって。ピラミッドの垂線でさえも——汝が助けであろう。
47. もしわれがそれらに番号を振るならば、1 である。
48. 最良なるは汝の愛、おお主よ！ 汝は暗闇に明かされ、木立の恐怖の中手探りする彼は偶然に汝を捕らえるであろう、ちいさな鳴き鳥を捕らえる蛇としてさえ。
49. われ汝を捕らえたり、おお柔らかきつぐみよ。われはエメラルド層の鷹のごとし。われは汝を本能から捕らえるであろう、汝が栄光によりわが眼は破壊されるにもかかわらず。
50. 彼らはいまだ向こう側の愚かな人々にすぎぬ。われは黄色の砂の上に彼らを見る、皆ティルス紫を纏っている。
51. 彼らは網目の土地にその輝く神を引き寄せる。火の主がため彼らは火をおこし、不浄なる言葉を叫ぶ。「Amri maratza, maratza, atman deona lastadza maratza maritza—marán!」なる恐ろしき呪いの言葉さえ。
52. それから彼らは輝く神を焼きそのすべてを食る。
53. これらは邪悪な民である、おおうつくしき少年よ！ われらは他の世界へと通り過ぎよう。
54. われら自身を好餌に、魅惑的な姿にしよう！
55. われは象牙の胸に金の乳首を持つ光り輝く裸の女であろう。わが全身は星のミルクのようであろう。われは輝かしくギリシャ人であろう、不安定な島デロスの高娼たる。
56. 汝は釣り針にかかりしちいさき赤い虫のようであろう。
57. だが汝とわれはともにわれらの魚を捕らえよう。
58. それから汝は金の背と銀の腹をした輝く魚のようであろう。われは獲得せし二頭の雄牛よりも強い乱暴でうつくしい男のようである。西の男は、すべての軸より偉大な杖

にさげた高価な宝石の入った大袋を運ぶ。

59. そして魚は**汝**に捧げられ屈強な男は**わが**ために吊し上げられる。**汝とわれ**とはくちづけを交わし、**原初**のあやまちを贖うのだ。しかり、**原初**のあやまちを贖うのだ。

1. おおわがうつくしき**神**よ！ われは谷川の鱒のごとく**汝**が心臓を泳ぎたり。
2. われは歓びに淵から淵へと飛び跳ねる。われは茶、金、銀と見栄えがよい。
3. なんと、われは初雪の頃の朽葉色の秋の木よりもうつくしいのだ。
4. 更にはわれの思う水晶の洞窟はわれよりもなおうつくしい。
5. われを引き上げられるのはひとつの釣り針のみ。それはこの川岸に跪く女である。自身から溢れ出たる輝くしずくを注ぐのは彼女である、砂へと川がほとぼしり出るよう。
6. あそこのマートルに鳥がいる。われを**汝**が心臓の淵より引き上げることができるのはその鳥の歌のみ、おおわが**神**よ！
7. 幸福に笑うこのナポリの少年は誰なるや？ 彼の恋人は強大なる**火の山**の噴火口である。彼の黒焦げの四肢が溶石の密かな舌の中傾斜を下るのをわれは見た。
8. そしておお！ 蟬の声！
9. われがメキシコにて酋長であった頃を思い出す。
10. おおわが**神**よ、かの頃**汝**は今のごとくわがうつくしき恋人であったか？
11. かの頃のわが少年時代は今のごとく**汝**が玩具であったか、**汝**が歓びであったか？
12. まこと、われはそれら鉄の時代を思い出す。
13. われらがどのように黄金のほとぼしりにて苦い湖を水浸しにしたのかを思い出す。われらがどのように貴重なイメージをシトラルテペトルの噴火口に沈めたのかを。
14. 望ましき炎はどのようにわれらを低地にまで持ち上げたのか、われらを踏み入ることの適わぬ森に着地させたのか。
15. しかり、**汝**は金のくちばしを持つ奇妙な緋色の鳥であった。低地の森に於いてわれは**汝**のつれあいであった。そしてわれらはばらばらに切断された司祭たちの鋭い詠唱と**生け贄たる処女**の狂気の絶叫を遠くから聞くこともあった。
16. そこには彼の知恵を伝えし奇妙な翼を持った**神**がいた。
17. われらは穏やかな川の砂地にある砂金の星粒を手に入れた。
18. しかり、またその川は空間と時間の川でもあった。
19. われらそこより別れき。よりちいさく、より大きく、これまでよりも、おお甘美なる**神**よ、われらはわれら自身であり、同じである。
20. おおわがものなる**神**よ、**汝**は角のうちに稲妻を持つちいさな白い山羊がごとし！
21. われは**汝**を愛している、われは**汝**を愛している。
22. すべての息吹、すべての言葉、すべての思考、すべての行為は**汝**との愛の営みである。
23. わが心臓の鼓動は愛の振り子である。
24. わが歌は柔らかなため息。
25. わが思考はまさに歓喜なり。
26. そしてわが行為は**汝**が子らたる無数の、星々と原子たち。
27. 無よあれ！
28. 万物をこの愛の海へと放り込ませよ！
29. この献身を**5体**の悪魔を祓う強力な呪文となせ！
30. ああ**神**よ、すべてなくなった！ **汝**は**汝**が歓喜を達成する。Falútlí! Falútlí!
31. そこに沈黙の厳粛さがある。もはやなんの声もない。
32. したがってそれは終わりへと向かう。塵であったわれわれは塵の中へと決して剥がれ落ちぬであろう。
33. そのように。
34. それから、おおわが**神**よ、**香辛料の庭**の息吹。これらは反対の味を持つ。
35. 円錐は無限の光線以て切断され。双曲型の生命の曲線は実在へと跳躍す。
36. われらは更に更に漂う。けれどもわれらは静止している。それはわれらから剥がれ落ち続ける一連のシステムなのだ。

37. まず崩壊するのは愚かなる世界。古き灰色の地の世界。
38. それを主宰する悲しげな髭の顔とともに、気が遠くなるほど彼方へ落ちる。それは沈黙と悲痛に消え行く。
39. われらは沈黙と至福へ、そしてその顔は**エロース**の笑い顔。
40. 微笑むわれらは秘密のサインで彼に挨拶をする。
41. 彼はわれらを**逆さまの宮殿**へと導く。
42. そこには**血の心臓**があり、ピラミッドのその頂点は**原初のあやまち**の向こう側へと下り届く。
43. **汝が栄光**にわれを埋葬せよ、おお愛されし、おお処女にして売春婦たる王子の恋人よ、**宮殿の最も秘密なる部屋**のうちの！
44. それは速やかに完了した。しかり、封印は地下墓所に施される。
45. それを開くに役立つものあり。
46. 記憶でもなく、想像力でもなく、祈りでもなく、断食でもなく、懲罰でもなく、薬物でもなく、儀式でもなく、瞑想でもなく。受け身の愛によってのみ彼は役立つだろう。
47. 彼は**愛されし者**の剣を待ちわび一撃のためにその喉をむきだしにするだろう。
48. そして彼の血がほとぼしり、空中でわれにルーンを書くだろう。しかり、空中でわれにルーンを書くだろう。

VI

1. 汝は女司祭であった、おおわが**神**よ、**ドルイド**らの。そしてわれらはオークの力を知っていた。
2. われらはわれらがために**宇宙**の形をした石の神殿をつくった、汝が公然と身につけわれが隠し持つにもかかわらず。
3. そこでわれらは真夜中まで多くの素晴らしきことを為した。
4. 下弦の月までいそしみたり。
5. 平原を越え狼たちの残虐な咆哮が届いた。
6. われらは応え、集団で狩った。
7. あらたな**礼拝所**にまで進みわれらは**汝がドルイド服の下に聖杯**を運び去った。
8. ひそかに隠れて秘蹟の告知を飲んだ。
9. しかるのち恐ろしい疫病が灰色の地の人々を捕まえ、われらは喜んだ。
10. おおわが**神**よ、**汝の栄光**を隠したまえ！
11. 盗人として来たりて、**秘蹟**をこっそり盗み出させたまえ！
12. われらの木立で、われらの修道院の独房で、われらの幸福の蜂の巣で、飲もう、飲もう！
13. 完全無欠な黄金たる真の色合いですべてを染めるのはこのワインである。
14. これらの歌には深遠なる秘密がある。鳥の声を聞くだけでは充分ではない。歌を楽しむには彼は鳥であらねばならぬ。
15. われは鳥なり、**汝**はわが歌、おおわが輝かしく迅速なる**神**よ！
16. 汝は星々のうちにて手綱をとる。汝は**無**のサーカスを通り抜けならびたる7つの星座を疾走する。
17. **汝剣闘士たる神**よ！
18. われはわがハープをつまびき、**汝**は獣たちそして炎と戦う。
19. **汝**は**汝**が歓びを音楽に見出し、われは戦いに見出す。
20. **汝**とわれは**皇帝**の寵愛者。
21. 見よ！ 彼はわれらを皇帝の高座に呼び出した。
夜の訪れ。それは崇拜と至福の素晴らしき乱痴気騒ぎなり。
22. 奴隷の上の王子の肩より散りばめられた外套がごとく夜は訪れる。
23. 彼は自由人に昇格する！
24. 投げよ**汝**、おお預言者よ、これらの奴隷たちの上なる外套！
25. 素晴らしき夜、そしてそこには稀なる火が。しかしその栄光が包含するであろう奴隷の自由。
26. そのようなわけで更にわれは大きな悲しみの都市へと降りて行った。
27. そこで死せる**メッサリナ**は彼女の冠と死せる**ロクスタ**の毒とを交換せり。**カリグラ**が立ち、物忘れの海を襲った。
28. それは**汝**であった、おお**カエサル**よ、**汝**は馬なる**神**を知っていたか？
29. ゆえに見よ！ われらはサクソン人が地球に刻み込んだ**白い馬**を注視する。またわれらは古き灰色の地に燃える**海の馬**を注視し、それらの鼻孔から出る泡はわれらを啓発する。
30. ああ！ だがわれは**汝**を愛している、**神**よ！
31. **汝**は氷の世界の月のよう。
32. **汝**は虎の地の燃えつきた平原上の最上の雪の夜明けのようだ。
33. 沈黙によりまた発話によりわれは**汝**を崇拜する。
34. しかしすべては無駄である。
35. 役立つのはわれを崇拜する**汝**が沈黙と**汝**が発話のみ。
36. 嘆け、おお灰色の地のお前たち、われらがお前たちのワインを飲んだことに対して、そしてお前たちに苦いかすのみを残したことを。
37. されどこれらよりわれらはお前たちに**神々**のネクタールを超えた酒を蒸留するだろう。

38. 黄金と**香辛料**の世界に関してわれらの色合いの価値がある。
39. われらの投影たる赤い粉についてはすべての可能性を超えている。
40. そこには少数の者たちがいる。充分にいる。
41. われらは杯の運び手でいっぱいになるだろう、ワインは出し惜しまれぬ。
42. おお愛しきわが**神**よ！ **汝**はなんという饗宴を与えたもうたのか。
43. 光と花々と処女たちを注視せよ！
44. ワインとケーキと素晴らしい肉の味！
45. 芳香と鼻孔に住む森のニンフたちがごときちいさな神々の大群を吸い込め！
46. つめたい大理石の壮麗な滑らかさと太陽と奴隷たちの惜しみないあたたかさをお前の全身で感じよ！
47. **不可視**の者よ、知らしめたまえすべての烈しき**光**のその破壊的な活力を！
48. しかり！ すべて世界はばらばらに分裂した、稲妻により古き灰色の木として！
49. 来たれ、おおお前たち神々よ、そして饗宴をしよう。
50. **汝**、おおわが最愛なる者よ、おおわが絶え間なき**雀たる神**よ、わが飲びよ、わが熱望よ、わが詐欺師よ、**汝**来たりてわが右手で囁れ！
51. これは司祭 **Al A' in** の記憶の物語であった。さよう、司祭 **Al A' in** の。

VII

1. 香の燃焼により、そして時を経た薬物によりかの**言葉**は啓示された。
2. おお食事と蜂蜜と油！ おおうつくしき月の旗、至福の中心で彼女が吊す。
3. これらは死体の包帯を緩める。これらは**オシリス**の足をほどく、燃え立つ**神**が彼の素晴らしい槍で天空を介し猛威を振るうようにと。
4. だが純粋な黒の大理石は粗末な彫像であり、眼の変わることなき痛みは盲人に苦い。
5. 振動したる大理石の恍惚をわれらは理解する、戴冠せし子供の激痛による分裂、黄金の**神**の黄金の棒。
6. どうして石の中にすべてが隠されているのかわれらは知る、棺のうちに、壮大なる地下墓所のうちに、またわれらも古の書に書かれたように「Olalám! Imál! Tutúlu!」とこたえる。
7. あらたなアイオンの生命としてその書の3つの言葉がある。いかなる神もすべてを読んではおらぬ。
8. しかし汝とわれは、おお**神**よ、ページごとにそれを綴った。
9. 11重の言葉の**11重**の解釈がわれらのもの。
10. これら7つの文字が組み合わさり7つの異なった言葉をつくる。それぞれの言葉が神聖であり、7つの文がそこに隠されている。
11. **汝**は**言葉**なり、おおわが最愛なる者よ、わが主よ、わがマスターよ！
12. おおわがもとへ来たれ、火と水とを混ぜ合わせよ、すべてが溶解するだろう。
13. 寝ても、覚めてもわれは**汝**を待つ。われは最早**汝**を喚ばぬ。**汝**がわがうちにいるからだ、おお**汝**われを**汝**が恍惚に同調せしうつくしき楽器につくりたもうた者よ。
14. しかれど**汝**はばらばらである、われとともに。
15. われは年の暮れのある聖日を思い出す、**オシリス**の**分点**の暮れ、はじめて**汝**をはっきりと見た時。はじめて恐ろしい急所を闘い抜いた時。**鵠頭**の**者**が対立を魔術で調停した時。
16. われは**汝**のはじめてのくちづけを思い出す、まさに処女がするように。暗い裏道には誰もおらず、**汝**がくちづけのみがとどまる。
17. **愛たる宇宙**すべてに於いて**汝**が傍らにはほかになにもなし。
18. **わが神**よ、われは**汝**を愛している、おお**汝**金めっきの角持つ山羊よ！
19. **汝アピス**たるうつくしき雄牛よ！ **汝アペプ**たるうつくしき蛇よ！ **汝身籠もれる女神**たるうつくしき子よ！
20. **汝**は**汝**が眠りのうちに呼び覚まされた、おお古の歳月の悲しみよ！ **汝**は打つために**汝**が頭をもたげ、すべては**栄光**の**深淵**へと溶解された。
21. 言葉の文字の終わり！ 7重の発話の終わり！
22. そのすべての驚異よ、砂を大股で横断する瘦せた足の速い駱駝の姿へとわれを分解したまえ。
23. 孤独そして忌まわしきは彼。されど彼は王冠を獲得した。
24. おお喜べ！ 喜べ！
25. わが**神**よ！ おおわが**神**よ！ われは時代の星くずの塵にすぎぬ。われは**事象**の**秘密**の**達人**なり。
26. われは**啓示する者**であり**つくり手**である。わがものは**剣**——そして**法冠**と**翼**の**生えた杖**！
27. われは**伝授者**であり**破壊者**である。わがものは**球体**——そして**ベンヌ**鳥とわが娘**イシス**たる**蓮**！
28. われはこれらすべての**超越者**。われは強大なる暗闇の象徴を有する。
29. 死の広大で黒く陰気な海と暗闇の中心の炎、そしてその夜をすべてに放射するシジルとなるだろう。
30. それがちいさな暗闇を飲み込むだろう。

31. だが深き者がこたえるであろう点につき。何ぞ？
32. われではない。
33. **汝**ではない、お**神**よ！
34. 来たれ、もはやともに論じず。楽しもう！ われら自身となろう、沈黙した、唯一の、分裂したる。
35. おお世界の孤独な森！ お前はいかな奥処にわれらが愛を隠すのか？
36. **至高**の槍の森は**夜**、そして**ハーデース**、また**憤怒の日**と呼ばれている。しかしわれは**彼の**将であり、**彼の**杯を運ぶ。
37. わが槍兵のためにわれを恐れるでない！ 彼らはそのちいさな尖端で悪魔らを殺すだろう。お前は自由になるだろう。
38. ああ、奴隷たち！ お前たちは知らぬであろう——どのように意志するのかを。
39. それにもかかわらずわが槍たちの音楽は自由の歌であるだろう。
40. **飲びの深淵**から大きな鳥が攫うだろう、そしてわが杯の運び手とするためにお前を運び去る。
41. 来たれ、おおわが**神**よ、最たる恍惚の中、**多との結合**を成就させたまえ！
42. **事象**の沈黙にて、**諸力の夜**にて、**3つの**呪われし領地を超え、われらの愛を満喫しよう！
43. わが最愛なる者よ！ わが最愛なる者よ！ 遠く、遠く**集合と法と悟り**を超え**孤独と暗闇の無秩序**へ！
44. ほんのそれゆえにわれらはわれら**そのもの**の光輝を隠さねばならぬ。
45. わが最愛なる者よ！ わが最愛なる者よ！
46. おおわが**神**よ、わがうちなる愛は**空間と時間**の絆へとはじけ散る。わが愛はそれら愛でない愛とともにこぼされた。
47. わが決して味わわれぬワインはそれらに注がれた。
48. その臭気は彼らを酔わせわが愛の活力は彼らの処女に強き子を産ませるだろう。
49. しかり！ 飲むことなく！ 抱擁せずに——そしてかの**声**は「しかり！ そのように」とこたえた。
50. われは**われ自身への言葉**を探し求めた。否、われ自身への。
51. そして**言葉**来たり。おお**汝**！ 充分だ。無に注意を払え！ われは**汝**を愛している！ われは**汝**を愛している！
52. それゆえわれはすべての終わりに確信を持ちたり。しかり、すべての終わりに。